

説教題：「**あの星が先だって進み**」

聖書箇所：マタイによる福音書 2章1-12 (2頁)

説教者：秀島行雄牧師 招詞：讃美歌93-1-19 交読詩編：詩編119編129-136節 (138頁)

讃美歌：83/260 (いざ歌え、いざ祝え) /252 (羊はねむれり) /255 (生けるものすべて) /27

「今週の聖句」〔…東方で見た星が先だって進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。〕 (マタイ伝2：9-10)

「牧師室の窓」 「コロナ後の地震水害振り返り激動の年静かに暮れゆく」

「降誕の星に導かれこの一年主の御守りをしみじみ思う」

(1)皆様おはようございます。今年も1年が過ぎ去ろうとしています。皆様はこの1年をどの様に過ごされましたでしょうか。1年間を振り返りますと、物の値段が高くなった年、お米やたまごや、チョコレートなどなどの値上がりがかつての生活に影響を与えています。風水害・地震・火災が地域の人々に多大な損害を与えました。世界の各地では戦争の被害・混乱が継続しており、国際連合の機能が大幅に低下している年でもあります。カトリック教皇が交代なされ、O・K姉が天に召された年でありました。皆様にとりましてはどの様な1年間でありましたでしょうか。

今年には21世紀の最初の四半世紀、四分の一を締め括る年でもあります。私たちは、どのような年、状況でありましても聖書の御言葉に養われ、主を讃美する日々であり続けたいと願っています。本日はキリストのお誕生に係わる聖書の箇所を読んで参ります。

(2)きょうの聖書箇所はマタイによる福音書2章1節から始まります。1節の前半部分をお読みします。〔(2:1)イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。〕イエス様お誕生の時期と場所が記されています。「ヘロデ王の時代」とは、古代ローマ帝国の最も東の地域であるパレスチナ地方をヘロデ大王が支配していました。今から約二千年前のことです。ヘロデ大王は紀元前40年にローマ皇帝アウグストゥスによりユダヤ王に命じられました。残忍な恐怖政治を行なったことで知られています。ヘロデ大王はエルサレムよりは遙か南の地域であるエドム(またはイドマヤ)と言う地域の出身であり、ユダヤとエドムとは対立していました。ユダヤの人々はヘロデ大王に虐げられていました。

次に、「ベツレヘム」はエルサレムの南約8kmの場所です。北緯32度弱、地中海から運ばれて来た雨雲が、標高800m弱の高原に恵みの雨を降させます。ユダヤ地方の中では農作に適した肥沃な場所です。旧約聖書のルツ記の舞台となっています。落穂拾いの場面が思い出されます。

1節の後半部分には〔そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て〕と書かれています。「占星術の学者たち」原文のギリシア語では、Μαγοι(マゴイ)/Μαγος(マゴス)と言いまして、ペルシャやバビロニアの星占いをしていた学者兼祭司です。星占いと言いますと、現代では怪しげな星占いとも思われますが、当時は星の動きを観察する科学者であり、数学を使う技術者と言えます。当時のペルシャやバビロニアはユダヤよりも文明・文化が進んでおり、科学や数学の水準は高かったことと思われます。ご参考までに、英語ではm-a-g-iと書いてメイジャイと発音します。m-a-g-iの後にcを付けますと、magic(マジック、魔法・魔術・手品)になります。英語では単数形と複数形では綴り字も発音も異なります。辞書を引いてみると面白いことが分かります。辞書を引く、辞書を読む楽しみが、認知症防止にも役に立ちそうです。新共同訳聖書では「占星術の学者たち」と翻訳されましたが、文語訳・口語訳でも、一番新しい翻訳の聖書協会共同訳でも、「博士(はかせ)たち」と翻訳されています。言葉の意味の正しさも大切ですが、日本語で読む人たちの理解の仕方を考慮して翻訳することも重要と考えられます。正しく翻

訳することによって、読む人が間違った理解をしてしまいますのです。良かれとの思いや行動が、正反対の結果を生じることに、私たちは知恵を磨かなければなりません。

(3) 続いて、2節を見てみましょう。〔(2:2)…「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方(かた)の星を見たので、拝みに来たのです。」〕ヘロデ王を目の前にして、「ユダヤ人の王としてお生まれになった方」の所在を尋ね、「拝みに来た」と言っています。ですから、3節に書かれている「ヘロデ王」や「エルサレムの人々」の「不安」は極めて大きかったことが推測できます。加えて、2節には「わたしたちは東方でその方(かた)の星を見た」と書かれています。ユダヤとは遠く離れた場所から、不思議な星の導きがあったと、東から来た学者たちは言っています。ヘロデ王やユダヤの人々も同じ夜空を見ていたのですが、どの様な星を東から来た学者たちは見たのでしょうか。不安は募るばかりです。

…ここで、ご参考までに、ここ数年のことですが、知らないことを問い直す「無知学」と言う学問分野が重視されています。何かと言いますと、携帯電話・スマートフォンの急速な発達・普及によって、私たちは偽情報や誤り情報の洪水の中に流されて、真実を把握することが出来ない状況にあります。従来であれば、情報を自分なりに理解し判断して行動することが求められその様に学習してきましたが、膨大な偽情報・誤り情報の洪水が人々の判断力をいびつにしているのです。「無知学」とは「情報の分析力」に他なりません。従って、聖書をきちんと読むことが私たちを助けることとなります。いい加減に読んで、表面的に読んでではありません。自分の読み方が「的はずれ」になっていないことを点検することが大切です。

(4) 続く4節5節6節にはヘロデ王と祭司長・律法学者との問答が書かれています。ヘロデ王の精神状況は混乱しているのに対して、祭司長・律法学者たちは淡々と答えています。5節には「預言者がこう書いています」と言って、6節にその内容を示しています。これは旧約聖書のミカ書5章1節(1454頁)を指しています。そこを読んでみますのでお聞き下さい。〔(ミカ書)(5:1)エフラタ《…創世記35:19…エフラタ、すなわち今日のベツレヘム…》のベツレヘムよ、お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのために、イスラエルを治める者が出る。彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる。〕

流石に律法の専門職として即座に答えています。神の民であることを自負していた祭司長や律法学者たちは聖書(旧約聖書)を聖典としていたが、そこに書かれている「指導者」つまり、「イスラエルの牧者」となる方が彼らの時代に現れるとは信じていなかったのです。知識は豊富であっても、行動に結びつかない知識は何の意味もないと言えるでしょう。福澤諭吉が学者は役に立たないと批判し、実学であることを重視しました。150年前に出版された『学問ノススメ』が今の時代にも意味を持つのです。2千年前の新約聖書や2千数百年前の旧約聖書が現代においても深い感動をもって私たちに生きる勇気を与えてくれることに驚きと深い感謝とを禁じ得ません。

次に7節8節です。〔(2:7)そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。(2:8)そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。〕

ここには「ひそかに呼び寄せ」と書かれています。ヘロデ王が不安で揺れ動いている心の動揺を隠しながら東方の「占星術の学者たち」呼び寄せて、言いました。「見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」この言葉はヘロデの本心でありましょうか。もしも本心ならば、何らかの準備をするなり、贈り物を持たせるなりの行動が伴っていたでありましょうが、この短い記述には記載されていません。併し、逆に、ヘロデ王の心の動揺を露わにしています。

(5) 9節を見てみましょう。〔(2:9)彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。〕この箇所は童話の一場面の様です。場面は夜で

す。起伏の少ない大地を「占星術の学者たち」が、おそらくは、山羊か馬に乗っているでしょう。月はなく、暗い夜空に星が輝き「東方で見た星が先立って進」んでいます。「星が先立」つと言っても、この星はこの占星術の学者たちにのみ見えていたのかも知れません。不思議な導きによって人間は導かれるのです。皆様にはその様な体験をされたことがおありかも知れません。

…私は、信徒時代の職業人であった頃に、取引先のある種の人々が、不思議な導きによって導かれるように感じられたことがしばしばありました。一言で言えば信念を持って仕事をしているのです。他の人には見えなくてもその人には見えている何かがあるのです。職場でも達成が困難と思われる仕事を、分析して、問題解決の糸口を見出す人がいました。ある人は仕事上でしばしば面談していた若い公認会計士でした。人の話を聞き、ご自身でも話をしているうちに、白紙のノートに放射線状の線を描いていき、問題解決を見つけ出すのです。不思議に思って本人に聞きますと、彼にとっては料理を作るのと同じで、料理に見合った食材を選び、組み立てていくのです。「東方で見た星が先立って進み」とは、希望と現実と努力とのミックスであると思います。その行動によって「ついに幼子のいる場所の上に止ま」り、役割を実現することになります。私たちの人生にも「東方で見た星が先立って進」んでいることに気が付くことが大切であると思います。不思議な導きによって、私たちは導かれる、と言う「事実」に私たちは驚き、感謝することが出来るでしょう。

(6)星の導きにより、学者たちはイエス様と母上のマリア様に会うことが出来たのです。11節には「彼らはひれ伏して幼子を拝み」と書かれています。「ひれ伏して…拝み」とは、表面的な礼拝ではなく、全身全霊を捧げて、心からの礼拝を行なっているのです。人間は物事に集中していないと、そのことが姿かたちに現れてきます。次に、キリスト誕生の後の初めての礼拝が神の民であるユダヤ人によってではなく、遠い国から訪ねてきた異邦人によって実現したということは、異邦人には神への礼拝の扉が開かれていることを明瞭に宣言していることになります。

11節では、東方の学者たちは誕生日の贈り物を用意しており、献げました。「黄金、乳香、没薬」です。乳香・没薬は植物から抽出した香水或いは薬品です。旧約聖書の出エジプト記30章22節～38節(p.145)に「聖なる聖別の油、神聖なものである」と書かれています。

11節には「贈り物として献げた」と書かれています。捧げることが出来る最上な物質を献げる、事前に用意をすることが書かれています。「贈り物」はギリシア語では $\delta\omega\rho\alpha$ (ドォウラ)と書かれています。英語ではgift(ギフト)と翻訳されています。新約聖書のエフェソの信徒への手紙2章8節では「賜物(たまもの)」と翻訳されています。興味深い言葉です。

ご参考までに、そのエフェソ書の箇所をお読みします。〔(エフェソ書2:8) 事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物(たまもの)です。〕 そうです「神の賜物(たまもの)」とパウロは言っているのです。私たちにはクリスマスプレゼントが与えられているのです。

ルカによる福音書21章1節～4節には貧しい婦人がエルサレム神殿の賽銭箱に献金を入れる場面があります。その婦人が最も少額のレプトン銅貨2枚を入れる姿をイエス様をご覧になり「だれよりもたくさん入れた」と言われました。心を込めて心を尽くすことに主なる神は喜ばれるのです。

私たちはあの星に導かれて心を込めて礼拝をして参りましょう。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちはあなたの御恵みによって生かされていることに感謝いたします。主イエス・キリストのお誕生を迎えました。この地上にキリストをお送り下さりありがとうございます。本日は1年の締め括りの年末礼拝です。この1年間の日々の御守りに感謝いたします。

2025年12月28日 南板橋教会 主日礼拝 降誕節 第1主日

人生の辛い日々にも、安らかな時にもあなたに向かって祈ることが出来ます様にお支え下さい。
神が創造されましたこの地球上に生きる一人一人に平安・平和・希望が与えられますように。食
べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人一人に慰めがありますように、お守りくださ
い。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安があり
ますように。天に召されましたK姉妹に主の平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン